

選択的 SGLT2 阻害剤ダパグリフロジンを投与した65歳未満 2 型糖尿病患者における有効性と安全性について

なが み はる ひこ
長 見 晴 彦

キーワード：2 型糖尿病，ダパグリフロジン，肥満，体重減少，運動，食事療法

要 旨

当院に外来通院中の65歳未満の2型糖尿病患者のうち血糖コントロール不十分な症例に対してダパグリフロジンを追加投与し観察期間が36週間以上を経過した12症例を対象としダパグリフロジンの有効性，安全性，副作用について検討した。ダパグリフロジン投与患者は12例（男性8例，女性4例）で投与開始時の平均年齢は51.8歳，平均罹病期間は7.7年，平均体重は89.8 kgであった。血中 HbA1c 値はダパグリフロジン投与前8.6%±0.9%から投与後1ヶ月，3ヶ月，6ヶ月，9ヶ月後にそれぞれ7.9±0.8%，7.4±0.7%，7.1±0.9%，6.8±0.6%と有意に（ $P < 0.05$ ）低下した。平均体重は投与前89.8 kgから投与後1ヶ月，3ヶ月，6ヶ月，9ヶ月後に86.9±7.1 kg，84.6±9.8 kg，82.8±5.8 kg，79.8±8.0 kgと有意に（ $P < 0.05$ ）低下した。ダパグリフロジン投与後のヘマトクリット値は投与前44.5%±1.6%から1ヶ月後45.1%±0.7%，3ヶ月後44.9%±0.8%，6ヶ月後44.6%±1.0%，9ヶ月後に44.5%±0.8%と推移し大きな変化は認めなかった。またダパグリフロジン投与中の副作用として軽度な口渇，頻尿は認めたが尿路感染，湿疹は認めなかった。2型肥満型糖尿病患者においてダパグリフロジンは耐糖能改善のみならず患者の運動療法，食事療法に対してモチベーションを向上させる事から治療の選択肢として考慮する価値はあると思われる。

はじめに

糖尿病患者は本邦で増加の一途をたどり，最近

の報告では予備軍含めて2050万人が糖尿病の疑いがあるとされている¹⁾。日本糖尿病データマネジメント (JDDM) における国内2型糖尿病患者のデータベース解析によれば平均 HbA1c 値は年々低下しているが，逆に平均 BMI は年々増加し2015年には25 kg/m²を越えたとしている。この

Haruhiko NAGAMI

長見クリニック

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1